

パリ・ポンピドゥーセンター キュビズム展 美の革命

ピカソ、ブラックからドローネー、シャガールへ

国立西洋美術館 23. 10. 03～24. 01. 28 京セラ美術館 24. 03. 20～07. 07



本展は、世界屈指の近現代美術コレクションを誇る「パリ・ポンピドゥーセンター」の所蔵品から、「キュビズム」の歴史を語る上で欠くことのできない貴重な作品が来日し、「50点以上」が日本初出品となることで注目されている。

「キュビズム」とは、20世紀初頭に「パブロ・ピカソ」と「ジョルジュ・ブラック」により生み出され、西洋美術の歴史に大きな変革をもたらした。

展覧会は、20世紀美術の真の出発点となり、新たな地平を開いた「キュビズム」の豊かな展開と「ダイナミズム」を、主要作家40人ほどの絵画を中心に、彫刻、素描、版画、映像、資料など「約130点」を通して紹介している。

ロベール・ドローネー 《パリの街》 1910年 画布/油彩 上図

画伯のパリシリーズの一点で、中央に3人の裸婦が配され一種のモニュメンタルな構造で、モデルもパリの街も無数の平面に分解され、全体が一体化して

いて、アラベスク（モザイク様模様）でアラビア風の模様を際立たせている。

他の主な作品



ファン・グリス

《朝食》

1915年

油彩/カンヴァス

フェルナン・レジェ

《婚礼》

1911～12年

油彩/カンヴァス

ジョージ・ブラック

《大きな裸婦》

1907～08年

本邦初公開

